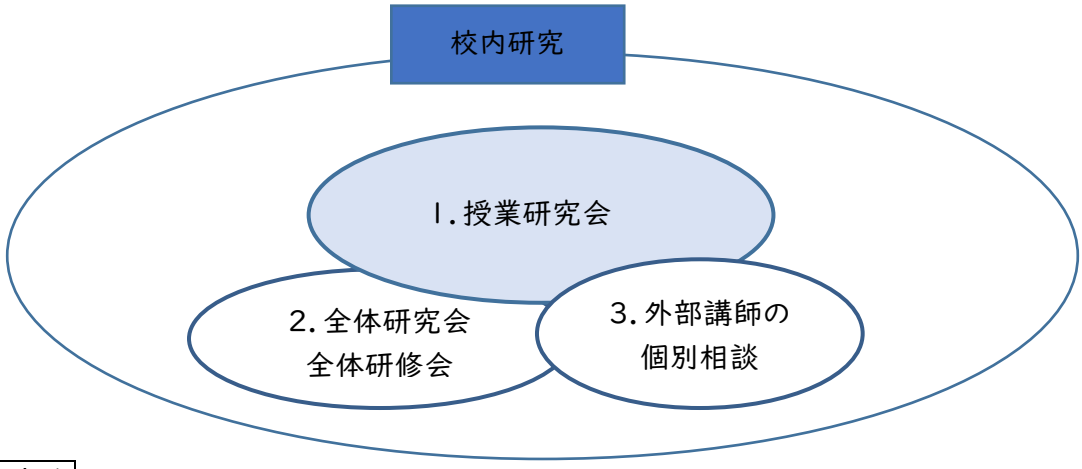
令和7年度 校内研究について

Ⅰ　研究テーマ 「子どもたちの内面の育ちを支える授業づくり

～豊かな生き方を目指す生と性教育～」一年次

昨年度まで『心豊かに「かかわる、楽しむ、生活する」力が育つ指導・支援～確かな学びを支えるための授業づくり～』というテーマで4年間研究を進めてきた。その中で、子どもたちの自尊心や、自己肯定感を高めることが、確かな学びを支えるためには必要だと感じた。一昨年度本校独自のチェックリストを作成し、昨年度はそれを学期ごとに教員自身がチェックし、日頃の指導を見直す機会とした。また高等部では、昨年度から研究テーマを「人とかかわりながら心と身体を育てる性教育の取組」と設定し、性教育に取り組み始め、夏には全教員対象に、専門家による性教育に関する研修会を行い、性教育に関する重要性を再認識した。性教育においても自分を見つめ直し、自分を大切にすることが大前提であり、それは昨年度までの研究においても通じることで、子どもたちの自尊心や自己肯定感を高める支援は欠かせないと感じた。そこで今年度は、子どもたちの内面の育ちという部分に焦点を当て、小学部は生活単元学習、中学部は作業学習、高等部は性教育の授業の中で目の前の子どもの見取りを丁寧に行いながら、全教員が協力して意見を出し合い、授業改善を行い、子どもたちの豊かな生き方につなげていこうと考えている。今年度は学部ごとの研究や話し合いの他に、学部を解いて縦割りで意見を交換したりアイディアを出し合ったりする場を設け、学部や学校全体のつながりを大切に、協力し合って研究を進めていきたいと考える。



1.授業研究会

【①4カ年の主な取組】

〇各学部のテーマに基づく学部やグループ研究

取組1　丁寧に実態把握や変容を追い、的確な目標および学習評価を行う。

取組2　授業改善や事例実践などを通して、授業づくりのポイントを明らかにしていく。

取組3　これまで積み上げてきた授業づくりの方法を生かしたり、学習指導要領の目標内容を活用したりして、目標－指導－評価がつながるような授業づくりのサイクルを練る。

【②研究方法】

〇各学部の学部主任・学年チーフ、教科担当等を中心に、全教員が一丸となって研究を進めていく。図書研究部は、それをサポートする。

〇客観的な指標を取り入れたり、適切な視点を設けたりして、一人一人の実態や目標を的確に捉える。また、子どもたちの様子や授業の評価を客観的に行うことができるように、動画や写真を活用したり、複数人で評価を出し合ったりする。

〇個のねらいに沿った授業が展開できるよう授業計画を行う。また授業後には、評価を行うとともに授業の改善点について話し合う。授業計画の形式や授業後の評価の観点などは工夫して行い、次に生かすことができるようにする。その際には、学習指導要領の各教科の目標及び内容も参考にし、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の観点も入れていく。

〇外部講師に授業の参観及び授業研究会に参加していただく。受けた助言を、子どもの見取りや授業づくりに生かす。

〇校内授業参観期間では、他学部の授業を参観し授業参観カードに意見を記入する。授業者は多くの意見を取り入れながら、授業改善を進める。

〇児童生徒や授業および単元の振り返りを行いながら、年間計画の見直しにつなげる。

〇実践を報告したり、意見交換したりする場を設け、一年間のまとめを研究紀要に掲載する。

〇授業研究会は、基本的に月１回行う。年に数回、学部をといた縦割り班で話し合う機会を設ける。

【③各学部のテーマ等】

各学部	学部テーマ	教科等
小低部	児童が『できた』『楽しい』を感じながら持てる力を発揮する授業づくり	合同遊び
小高部	児童が『できた』『楽しい』を感じながら持てる力を発揮する授業づくり	生単
中学部	自分が主役の作業学習の授業づくり	作業学習
高等部	人とかかわりながら心と身体を育てる性教育の取組	授業全般

2. 全体研究会・研修会

全教員で、夏季休業中、冬季休業中（１月）、年度末（3月）の計3回行う予定である。

今年度は、学部ごとの研究報告等と性教育に関する縦割りグループでの話し合いを計画中である。

3. 外部講師の活用（個別相談）

〇障害特性の理解や児童生徒の実態把握を行い、適切な指導・支援の在り方を検討および実践する。

・各学部にて年数回程度、対象児童生徒や対象グループについて、外部講師に助言をもらい、授業づくりに生かす。